

[公財]いわて産業振興センター広報誌

特集／キラリ輝く★いわての企業

## 岩手アカモク生産協同組合

海藻のアカモクを産業化し、

「100年必要とされる企業」を目指す



各部事業紹介／6・7

いわて希望応援ファンド地域活性化支援事業／8

ICL current topics／8





宮古市にある宮古工場。パック詰め商品「湯通しアカモク」用のアカモクは、山田町内の施設で選別したあと急速冷凍し、ここに保管する



同組合の組合員の多くは山田町の漁業者。3～5月にかけて、湾内の養殖棚のロープに付着している天然アカモクを収穫する

# 海藻のアカモクを産業化し、「100年必要とされる企業」を目指す

## 山田町／岩手アカモク生産協同組合

### 捨てられていたアカモクを商品に！

アカモクとは、ワカメなどと同じ褐藻類の海藻で、地域によっては「ギバサ」「ギンバソウ」などとも呼ばれる。シャキシャキした食感と粘り、磯臭さの少ないさっぱりした風味、免疫力強化・抗酸化作用などが期待できる機能性成分や栄養素が豊富な点が特徴だという。このおいしさで機能性に着目して商品化・普及に取り組んでいるのが、山田町の岩手アカモク生産協同組合だ。

20年以上も前、代表理事の高橋清

隆さんと当時ワカメ問屋を営んでいた父親の政志さん(故人)は、町内の浜に捨てられていたアカモクを秋田県の業者が拾って持ち帰り、メカブのように茹でて刻んで販売していることを知った。「ギバサ」として売られていたそれを試食するとおいしい。それまでアカモクは山田町をはじめ県内では見向きもされていなかったが、「きちんと加工すれば岩手でも売れる」と考えた政志さんは平成10年に同組合を設立し、高橋さんを代表理事に据えたという。

### 9年かけて急速冷凍法を研究・確立

山田町は県内でも有数のカキの産地で、ワカメや昆布の養殖も盛んだ。アカモクはその養殖棚に自生することから、高橋さんは養殖棚を持つ漁



湯通し後にカットしたアカモク。緑色がきれいに発色するよう、独自の急速冷凍法「アイフレッシュ製法」を確立した

業者を組合員とし、旬の3～5月に収穫してもらう。収穫物の中にはアカモクと似た海藻も混ざっているため、高橋さんたちが選別し、急速冷凍。その後、注文に応じて湯通しして刻み、パック詰めしている。

高橋さんはより品質の高い商品に仕上げようと、これら加工方法・技術を何年も研究して確立した。その代表が急速冷凍法。同組合では年間出荷のために旬の時期に収穫したものを急速冷凍しているが、収穫直後

と比べて湯通した時の発色が良くない。そこで9年かけて独自の冷凍法「アイフレッシュ製法」を確立したという。また、固いという理由で他社が除去している中芯部分も、特別な加工技術でやわらかくして利用。この中芯部分には食物繊維やカルシウムなどの栄養素が多いからだ。

こうした研究を経て、同組合のアカモクはおいしく栄養価が高い食品として知名度を上げ、注文も生産量も増えていった。



アカモクはヒジキと同じホンダワラ科の海藻

### 普及のためにブームを仕掛ける

設立して10年が過ぎてようやく黒字化となり、さらに大口契約の話が進んでいたなか、平成23年3月に東日本大震災が起きた。幸い組合員の漁業者は全員無事だったが、天然資源のアカモクはすぐに収穫できず、再起動したのは平成26年。ありがたいことに震災前の取引先から「待っていたよ」と注文が入り、同年中に震災前の約8割まで売上げを回復させた。

一方でこの頃、高橋さんはアカモクの普及のために、宮城県の生産者と「地域横断アカモクプロジェクト」立



パック詰めした商品は全国に届けられる





1 東日本大震災後に導入した、湯通しアカモク商品の自動充填ライン。導入後、2種類の商品のパッキングの効率が上がった 2 食品用のアカモク粉末 3 スーパーマーケット用(左)と飲食店向けの湯通しアカモク商品 4 同組合のアカモクエキスと、県内の酒蔵の酒粕成分を混ぜてつくられた化粧水



ち上げ、機能性をPRするなどして全国にアカモクブームを仕掛けていく。それにより各地で「アカモクを加工・販売したい」という声があがったことから、前述の加工技術を伝授。今では全国約40箇所に同業者が誕生している。

「アカモクの普及は私にとって第1フェーズでしたが、これによって産地間競争が始まりました。そこで今は第2フェーズとして、三陸ブランドの発信に力を入れています」と高橋さん。アカモクは日本各地の海に自生しているが、海の水質や地形によって品質が異なる。山田町の場合、カキの養殖が盛んなことからわかるように海水にはミネラルなどがたっぷり。また、波風が静かで穏やかな海を好むアカモクにとって、リアス海岸の山田湾は絶好の生育地だ。そのため同組合のアカモクは栄養豊富でおいし

いのだという。これを強く打ち出して大手スーパーマーケットとの新規契約につなげたいと、いわて産業振興センターの大規模展示会出展事業である「スーパーマーケットトレードショー」に出展したところ、数社との契約が成立した。出展に際しては、事前に、センターの専門家派遣事業を活用し、商品が持つ独自価値を明確化及び言語化することについて助言を仰ぎ、バイヤーとの商談成立率向上を図った。また、今年度の出展事業にも継続参加しており、さらなる販路拡大を目指す。

### 「脱水産加工業」を掲げて事業展開

実は高橋さんは組合設立当時から「脱水産加工業」と「アカモクの産業化」を掲げており、機能性成分の研究や、「湯通しアカモク」以外の商品開発

にも力を入れてきた。その結果、現在同組合の売上金額の約半分を、サプリメント用の粉末アカモクやアカモクエキスが占めている。

「アカモクは収穫時期や乾燥方法などによって機能性成分が異なります。そのためサプリメント用の素材は、お客さまの最終用途と求める効果をヒアリングしながら、最適のものを提供しています。アカモクのさまざまなエビデンスをビッグデータとして蓄積しているからこそできることで、それがうちの強みです」と高橋さん。今年は、アカモクエキスを活用した化粧水や粉末アカモクを使ったスイーツなども完成し、自社ECサイトを立ち上げて販売も始めた。今後も事業を拡大し、「社会から100年必要とされる企業」を目指している。

## 技術ポイント

### アカモクのビッグデータ

組合設立当初、高橋さんも父親の政志さんも、ワカメなど他の海藻の知識はあったがアカモクについては皆無だった。そこで高橋さんは最初の2年間、富山医科薬科大学アカモク研究会との共同研究や、インターネットを駆使した独学により、生態や機能性成分などの研究に注力。そのため営業活動を始めたのは、組合を設立して約2年半後だった。当時は食用以外の需要はなかったが、将来を見据えてそのまま研究を継続し、データを分析・収集・蓄積。それがその後のヘルスケア、スキンケア市場への参入や事業拡大につながっている。



### 湯通しアカモク用チョッパーマシン

当初、湯通しアカモクの商品は、東北地方の他社の商品を参考に喉ごし良く仕上げていたが、平成20年頃、首都圏のスーパーマーケットに納品した際、「もっと噛んで食べたい」という声があった。当時販売先のほとんどは首都圏だったので、首都圏の消費者のニーズに合わせてようと、カット用のチョッパーマシンに特殊加工を施し、よりシャキシャキした食感に修正。結果としてそれが他社商品との差別化になり、生産量は年々増えている。

### 代表メッセージ



代表理事  
**高橋 清隆**

#### >代表プロフィール

岩手県山田町出身。24歳の時に、サラリーマンを辞めて父親が営むワカメ問屋を手伝い始めたタイミングで、アカモクと出会う。平成10年、父親が設立した同組合の代表理事に就任。趣味は無く、休日の過ごし方は子育てと「アカモクの研究」。

「地域が豊かになる道を探して実践する」がポリシーなので、組合設立当初から、アカモクでイノベーションを起こし、産業化することを目指してきました。また、これからの当組合の成長戦略の土台として「海藻食文化を世界に広め、人々のウェルネスを共創する」をミッションステートメントにしています。現時点で岩手県内の天然アカモク資源が枯渇する不安はありませんが、未来はわからない。万が一の場合を想定し、県や漁協と一緒にアカモクの種苗生産と海上養殖にも取り組んでいます。夢は「アカモクのタネ屋」になることです。

### 企業DATA

会社名 岩手アカモク生産協同組合  
代表者 高橋 清隆  
業種 アカモクの収穫・加工・販売  
工場 岩手県下閉伊郡山田町中央町11-1  
電話 0193-65-1315

沿革 平成10年/設立  
平成12年/宮古加工工場稼働及び販売開始  
平成15年/宮古加工工場移転・稼働  
平成22年/イトーヨーカドー関東圏内店舗へ販売開始  
平成23年/東日本大震災発生 3年半休業  
平成26年/再稼働 製造販売開始  
令和 元年/アカモク養殖フィールド実証試験開始

従業員 5名(2022年1月現在)  
資本金 100万円  
URL <https://iakamoku.jp/>





## 各部事業紹介 事業者様の取り組みをサポートします。

### 「IWATE FOOD&CRAFT AWARD2021」 入賞商品 販売イベント開催報告



「IWATE FOOD&CRAFT AWARD 2021」入賞商品の販売イベントを、1月14日～17日の4日間、いわて銀河プラザ(東京都中央区)において開催しました。入賞特典として行う初開催のイベントであり、首都圏の消費者へ販売する機会を作ることで、県内事業者の商品力やマーケティング力の向上を図ることも狙いとして実施しました。

今後も、県内事業者の販路開拓・拡大、また商品の認知度向上をサポートするための事業を進めてまいります。

●お問い合わせ 地域産業・起業支援担当 TEL:019-631-3823

### 「第2回IoT導入促進セミナー」の開催報告



県内ものづくり企業におけるIoT導入を促進するため、標記セミナーを2月14日に開催し、オンライン含めて68名の方に参加いただきました。

当センターアドバイザー等による講演、支援企業3社の導入事例紹介の他、会場に「IoTデモキット」を展示し、来場者に生産工程の「見える化」を体感いただくとともに、オンライン参加者向けにもライブ配信により紹介しました。

当センターでは、専門家派遣等によりデジタル技術を活用した生産性向上を支援しておりますので、関心のある企業様は、お気軽にお問合せください。

●お問い合わせ 生産技術革新担当 TEL:019-631-3824

### 「第56回スーパーマーケット・トレードショー2022」への出展



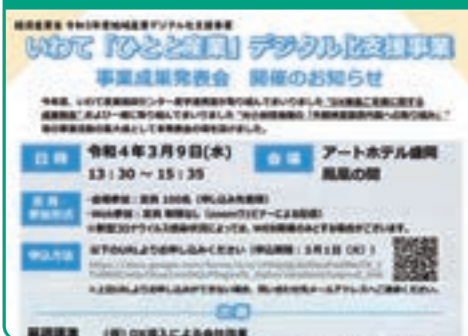
2月16日～18日に幕張メッセで開催された、「第56回スーパーマーケット・トレードショー2022」への出展支援を行いました。

今年度は県内事業者33社が出展し、会場には3日間で延べ42,885名(昨年度:26,385名)が来場しました。昨年度よりも来場者数も多かったことで、会場内は賑わいを見せ、新商品の紹介や販路開拓のための商談が各ブースで積極的に行われていました。

コロナ禍での出展となりましたが、参加した事業者からは対面形式での開催のため、全国のバイヤーと手応えのある商談ができたとの声がありました。今後も県内事業者の販路開拓を支援するため、取り組んでまいります。

●お問い合わせ 地域産業・起業支援担当 TEL:019-631-3823

### 「地域産業デジタル化支援事業 成果発表会」開催のお知らせ



当センターでは、令和3年度「地域産業デジタル化支援事業(経済産業省)」の採択を受け、県内ものづくり企業のDX推進に向けた様々な活動をおこなってまいりました。この度、本事業活動について、3月9日(水)に「成果発表会」を開催いたします。

詳細につきましては、いわて産業振興センターホームページ をご覧ください。

●お問い合わせ 産学連携室 TEL:019-631-3825

### 「医療機器オンラインセミナー」開催のお知らせ



例年、「いわて医療機器事業化研究会」総会時に各種セミナーを開催していましたが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインにて「ISO13485 設計検証プロセス」をテーマにセミナー(YouTube配信)を開催いたします。

詳細につきましては、いわて産業振興センターホームページをご覧ください。

●お問い合わせ 取引支援・産業集積担当 TEL:019-631-3822

### 「工程改善個別指導」のご案内



当センターでは、企業の生産性向上を図るため、トヨタ自動車東日本(株)OBをコーディネーターに迎え、個別訪問による工程改善指導を実施しております。

トヨタ生産方式に基づく作業の標準化によるムダ取りやメーカーに頼らない設備保全等の改善活動により、いかにムダを排除して付加価値の高い生産を行い、競争力を高めるか、各企業の作業工程における課題に応じて指導を行いますので、改善活動に関心のある企業様は、お気軽にお問合せください。

●お問い合わせ 生産技術革新担当 TEL:019-631-3824

### 「中堅管理者(後継者養成基礎)講座」のご案内



企業が繁栄・存続していくためには、トップを支える「人財」の養成が不可欠です。当センターでは、「人財」に要求される「経営理念・戦略」「経営計数の理解」「リーダーシップと部下育成」の3つのテーマについて、実習と体験学習を主体に体系的に習得できる中堅管理者講座を開催します。奮ってお申込み下さい。

詳細につきましては、いわて産業振興センターホームページをご覧ください。

●お問い合わせ 産業人材育成担当 TEL:019-631-3828

### 「研究開発支援」のご案内



産学連携室では、県内企業の技術開発等を促進することを目的に、大学等研究機関の研究シーズを活用した、産学共同研究のマッチング、競争的研究開発資金獲得、研究開発事業の管理・運営、事業化などの各種支援業務を行っています。

国や県等では、例年2月頃より競争的研究開発事業の公募を開始します。事業申請をご検討されている企業様はお早めにご相談、お問い合わせください。

●お問い合わせ 産学連携室 TEL:019-631-3825

※令和3年度  
いわて戦略的研究開発支援事業 採択事業  
「熱可塑性樹脂複合材料(CFRTP)の複合積層  
造形金型による製造方法の確立」

令和4年度公募

## 新商品開発・販路開拓を支援します いわて希望応援ファンド地域活性化支援事業

本県中小企業者等が行う新商品の開発や販路開拓などの新たな取り組みに助成金を交付します。  
ご検討される方は、事前相談※をご予約ください。(※HPより要予約)

- ✓ 事前相談期間 令和4年3月1日(火)～3月31日(木)
- ✓ 申請書受付期間 令和4年4月1日(金)～4月14日(木)
- ✓ 事業実施期間 交付決定日～令和5年1月末日迄



### 1. 新事業活動支援事業

対象者 県内の中小企業者、NPO法人、農事組合法人等

助成率 1/2～3/4以内 助成限度額 200～300万円 ※枠により助成率・限度額が変わります。

### 2. 創業支援事業

対象者 県内において新たに創業・起業する者、創業・起業後1年以内の県内中小企業者等

助成率 1/2以内(若者・女性及びU・ターン者の場合2/3) 助成限度額 150万円

### 3. 商店街等活性化支援事業

対象者 県内に住所のある中小小売業者(小売業やサービス業者、事業協同組合又は商店街振興組合)等

助成率 1/2以内(若者・女性を主体とする者又は東日本大震災津波の被災地に所在する者の場合2/3以内)

助成限度額 100万円

● お問い合わせ先 地域産業・起業支援担当 TEL: 019-631-3823

本事業の財源の一部については、令和4年度岩手県一般会計予算の議決を前提としているため、助成内容を変更する場合があります。

## ILC current topics

### ▶ 岩手県南・宮城県北ILC誘致推進大会について

令和3年12月24日に一関文化センターにて「岩手県南・宮城県北ILC誘致推進大会」が開催されました。

大会では、発起人代表として佐藤善一関市長のあいさつの後、参加した議員の皆さんから激励メッセージが述べられ、続いて、基調講演が行われました。

基調講演では、東京大学素粒子物理国際研究センター特任教授の山下了特任教授から「ILCの最新動向について」と題してILCの学術的意義や最新の動向等について、岩手県立大学の鈴木厚人学長からは「東北におけるILCの取組状況について」と題して、東北ILC事業推進センター等によるILC建設に向けた準備状況等について説明がありました。

最後に、「ILCの日本誘致は、我が国が標榜する科学技術創造立国と科学外交の実現、高度な技術力に基づくものづくりの競争力強化、さらには、人づくり革命等を促し、我が国の成長戦略に貢献する極めて重要な計画であり、世界に開かれた地方創生、東日本大震災からの創造的復興が実現し、ひいては日本の成長にも貢献できるもの。ILCによる「新しい東北」の扉が開かれるよう、岩手県南・宮城県北地域が一体となりILCの実現に向けた取組を力強く推進していく」とする大会宣言が満場一致で採択されました。

● お問い合わせ 岩手県ILC推進局事業推進課 E-mail: AB0009@pref.iwate.jp



大会の様子は一関市HP「ILCニュースWEB」から御覧いただけます。

